

【様式①】令和3年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立鶉小学校

校長名 小出 直弘

市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
全職員や地域コミュニティとの協働による積極的な指導体制を確立し、「チームとしての学校」を実現する	・コミュニティ・スクールを核に、学校・家庭・地域が学校経営方針を理解し「ゆたかでたくましい鶉の子」を皆で具現する。特に自己肯定感の醸成、いじめ防止と早期対応、誰一人とり残されることのない教育の充実に励み、魅力ある学校づくりと、働き方改革を図る。	A	・学校評価アンケートの結果から、学校教育目標の具現、自己肯定感の醸成、いじめの防止、命や人権を尊重した教育について、児童・保護者共に、9割以上があてはまる(よく・やや)と評価した。 ・働き方改革にも努め、病休者なく皆が元気に努めることができた。	・子どもと向き合う教育を実現するには、教職員の働き方改革が急務である。業務の見直しを図り、保護者や地域と連携・協働しながら働き方改革を段階的に推進し、教員が本来行うべき業務を果たせることを願っている。	・学校・家庭・地域が連携・協働して、目指す子ども像を共有し、互いの強みを生かしながら子どもの育成を図っていく。そのために、学校における教職員の働き方への理解をさらに深め、教育に力を注ぐことができる体制をより強化していく。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価し、教育効果の最大化を図る	・校内研究を通して、主体的・対話的で深い学びの授業づくりを目指す。 ・能動的で効果的な個別最適な学びとなるICTの活用を検証する。 ・地域人材や資源を活用し、「持続可能な社会の創り手」や「生きる力」を育む教育課程の編成、実施、評価・改善に努める。	A	・学校評価アンケートの結果から、分かる・楽しい授業づくりや、ICT活用能力の向上に関して、児童・保護者共に、9割近くがあてはまる(よく・やや)と評価した。 ・地域人材を活用した体験活動を概ね計画通りに実施することができた。	・昨年度以上に、落ち着いて学習に取り組んでいる。オンライン授業や保護者対応など、教職員の努力を感じる。 ・コロナ禍でも、工夫しながら教育活動(水泳や授業参観、スポーツ大会、宿泊行事等)を実施している。子どもたちからも満足の声が寄せられている。 ・英語、算数の授業において専門性の発揮された指導が続けられている。	・学力学習状況調査の分析を基に、全職員が、授業改善を図る。特に、主体的・対話的で深い学びとなる授業を目指す。 ・個別最適な学び(ICTの活用)や地域人材を活用した授業の充実を図る。 ・漢字学習の継続を図り、努力するよさを子どもが実感できるようにする。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、ソーシャルキャピタルを活用した学校づくりを推進する	・幼保の連携を通して、子どもの発達理解を深め、実態に適した指導法の工夫と改善を図り、小1プロブレムの解消に努める。 ・中学校卒業までに目指す姿を中学校区で共通理解し、4つの組織を中心に推進し、具現に努める。	B	・幼保小の教職員が、幼保小を接続する教育活動と指導を行うことができた。コロナ禍でも有益な交流活動を行うことができた。 ・小中一貫教育では、学び方や地域の偉人を取り上げたキャリア教育、人権教育などに一貫して取組み、豊かな学びを得ることができた。	・中1プロブレムや小1プロブレムの解消に今後も努めてほしい。 ・子どもの不登校を未然防止できるよう協力していきたい。 ・将来を見据え、地域の人材を育成できるよう共に尽力していきたい。	・幼小連携事業を推進し、入学前の学びを踏まえた学校教育に注力する。 ・中学校区で目指す子ども像を明確にし、具体的な方策を立てて取組み、子どもの姿を元に共に指導について検証し合う。
教育環境と学校財務環境を整備・管理し、有効に運用する	・安全・安心な環境整備に努めると共に、インクルーシブ教育の視点に基づいた学びに向かう教育環境を整備する。 ・学校財務環境の整備・管理に努め、教育的効果が得られ、かつ適正な運用に努める。	A	・子どもの学びを支える教材・教具の整備や、利用方法の研修を行い、有効に活用することができた。 ・安心安全な教育環境の整備に皆で努めることができた。 ・公金の取扱いの研修を行い、公正な会計処理に努めることができた。	・ICT機器をうまく活用できている。授業だけではなく、修学旅行などの場にも汎用させ活用する力が育っている。	・学びの促進となる教育環境の整備と運用に努めていく。 ・ICTの活用など、教材教具の効果的な活用事例を共有し、有効な運用を促す。 ・財務環境の管理(公金・物品・徴収金)に継続的に取り組む。
災害や事故等、多種多様な非常事態に対する安全性の確保をする	・危機管理マニュアルを作成して定期的に研修を行い、全教育活動における安全指導と安全管理の理解と徹底を図る。 ・子どもが自他の命の尊さを理解し、自ら考え、判断し、よりよく行動できるよう学校・家庭・地域が連携して育む体制を深化する。	A	・危機管理講習会を定期的実施し、非常事態を想定した対応につなぐことができた。 ・保護者や地域と連携して通学路などの安全点検や安全指導を行うことができた。学校評価アンケートの結果から、防災の取組について児童・保護者共に、9割以上があてはまる(よく・やや)と評価した。	・通学路の見守りを継続していく。危険箇所については随時、市に報告をしている。 ・運動場の門の拡張工事についても要望を続けていく。 ・交通事故の防止に向け、学校・家庭・地域皆で、規範意識を育て、命を守っていききたい。	・危機管理(コンプライアンス)研修会を定期的実施し、安全な学校運営に努める。 ・非常事態を想定した訓練の実施や意識化を図る啓発を定期的実施する。 ・規範意識の醸成を学校・家庭・地域と連携して行い、自ら考えてよりよく行動できる子どもを育てていく。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/uzura-e/>